東京演劇集団風
勝央公演

勝央文化ホール 開館15周年記念事業

ヘレン・ケラー
～ひびき合うものたち

作：松兼 功
演出：浅野 佳成
音楽：小室 等
舞台美術：上田 淳子
照明：坂野 貢也
音響：渡辺 雄亮
照明オペレータ：江田 健
舞台監督：佐田 剛久
演出助手：江原 早哉香

❖ 出 演 ❖

稲葉 礼恵 ／ ヘレン・ケラー
渋谷 愛 ／ アニー・サリバン
酒井 宗親 ／ アーサー・ケラー
仲村 三千代 ／ ケート・ケラー
中村 滋 ／ ジェイムス・ケラー
緒方 一則 ／ アナグノス
前田 浩和 ／ 医者
倉八 ほなみ ／ パーシィ
清水 菜穂子 ／ ビニー

世界中に影響を与えた
ヘレンとサリバンの出会い
これはただの感動じゃない

2019年
6月30日(日)
開場／13：30　開演／14：00

勝央文化ホール
岡山県勝田郡勝央町勝間田211-1

入場料（全席指定）
■A席（1階席） 2,500円
■B席（2階席） 1,500円　※当日券は各席500円UP

チケット発売日
【窓口販売開始日】2019年4月26日(金) 午前8時30分より
【電話予約開始日】2019年5月7日(火) 午前8時30分より
【チケット販売所】勝央町公民館　☎0868－38－1753

〈主　　催〉勝央町・勝央町教育委員会
〈後　　援〉公益財団法人美作学術文化振興財団・勝央町文化協会
〈お問合せ〉勝央町教育委員会教育振興部 ☎0868－38－1753

チケット購入者限定
バックステージツアー＆アフタートーク
（先着50名様）

ふだん見ることのできない舞台裏を見学できる貴重なツアー。公演終了後、劇団スタッフや俳優の方が、舞台演出の仕組みや役作りなどについてお話しをしてくれます。
（チケット購入時にお申込みください）

《あらすじ》

一切の光と音を失ってしまったヘレン・ケラー

1880年、ヘレンはケラー家の長女としてアラバマ州タスカンビアに生まれる。
2歳の誕生日を迎える前に、ヘレンは突然の病気で一切の光と音を失ってしまう。
7歳になったヘレンのもとに、
パーキンス盲学校から推薦された20歳のアニー・サリバンが
家庭教師としてやってくる。自由奔放なヘレンに、アニーはぶつかり合いながらも、
コミュニケーションを図ろうと身体ごと向き合っていく。

サリバン先生と出会ったことで、ヘレンは変わっていく——

父親アーサーは、ますます混乱するケラー家の状況にアニーの解雇を考えるが、
アニーは家族に甘えがちなヘレンを家族から引き離して、
ふたりで暮らすことを提案する。
アニーとふたりきりだとわかり、猛烈に反発し、暴れるヘレン。
しかし、アニーは指文字を教え続け、ヘレンの様子をじっと観察し、
ヘレンに何か激しい変化が起こるのを待ち望む——

自分らしい明日を探しているすべての人々へ

〈演出・芸術監督〉浅野佳成

『ヘレン・ケラー ～ひびき合うものたち』は、前半のプロローグを別にして、アニーとヘレンが出会い、二週間の共同生活を送る前後、一カ月ほどの期間を題材にして描いた物語である。このふたりの出来事の中に、あまり偏ったテーマを創出する上演は行っていない。なぜなら、ヘレン・ケラーとアニー・サリバンの偉大さは〈三重苦を乗り越えた〉ことに集約されるものではない。また、ヘレン・ケラーの生涯の断片を描くことで〈ものには名前がある〉という言葉の大切さを学ぶということでもない。事実、作者の松兼功氏自身、脳性まひによる重度の障がいを持ち、ある意味では他の人よりも重い生活を強いられてはいるのだが、彼はその障がいを乗り越えようとは考えていない。障がいとつきあいながら、家族と語らい、友人と酒を呑む。

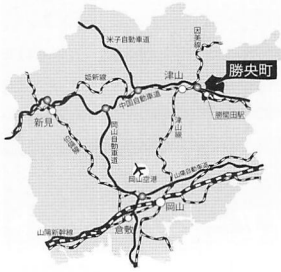
ヘレン・ケラーが偉大だというならば、それはアニー・サリバンとの間に生まれた通じ合う心の波を、ケラーやケイト、ジミーやビニーなど、家族や知人に伝え、その波を世界中の人々に広げていったことではないだろうか。彼女は三重苦と向き合い、障がいとつきあいながら、アニー・サリバンとともに世界中の人々と語り合った。ヘレンとアニーを結びつけたのは、飽くなき人間への好奇心と愛情の交感であり、教育の原点ともいえる姿である。そういうことからすると、強いていえばこの物語の小さなテーマは、教育の可能性といえるかもしれない。

人と人とが出会うためにはさまざまな障がいがある。
その障がいを抱えながら、なおも人と人とはつながっていくべきだ。
私たちはこの時代にあってこそ、教育について、人間について、より語り合いたいと考えている。

東京演劇集団 風

1987年創立。劇団名には“風のように、形にとらわれずものをつくる”という思いが込められている。チェーホフやブレヒト作品をはじめ、近代・現代戯曲や新作翻訳劇の上演など、数々のロングランを続けている。1999年、専属の拠点劇場〈レパートリーシアター KAZE〉を建設。年間8～10本のレパートリー作品と新作の上演を行う。2003年より〈ビエンナーレKAZE国際演劇祭〉を開催。東欧をはじめとする各国の優れた作品を招聘するのみならず、各国の演劇人との交流を育み、多国間による演劇人・芸術家との交流・共同製作は今なお続いている。このような演劇による国際交流が評価され、レパートリーの数々が、モルドバやロシア、ルーマニア、フランス、アメリカの演劇祭に招待される。

勝央文化ホール

岡山県勝田郡勝央町勝間田211-1
TEL.0868-38-1753　FAX.0868-38-2580

〈主　　催〉勝央町・勝央町教育委員会
〈後　　援〉公益財団法人美作学術文化振興財団・勝央町文化協会
〈お問合せ〉勝央町教育委員会教育振興部 TEL.0868-38-1753